

子どもとの心理的距離—父親の場合

猪野郁子

(島 大)

目的：最近子どもへの虐待等両親の養育態度に関わる諸問題が顕著になっている。また、子どもとのコミュニケーションがうまくとれない親も増えている。そこで、父親を対象に、子ども（幼児）との心理的距離を明らかにしようとした。心理的距離を測る場合、秋山らは、相手との空間的距離とお互いの顔の向きで測定しているが、ここでは、空間的距離を質問紙で得ることとした。

方法：質問紙法を用いた。質問紙は、養育態度を見る項目（鈴木らによる）、父性性を見る項目（山口による）に心理的距離を見る項目からなっている。対象は、島根県東部の3幼稚園（私立）に通園する3歳児から6歳児の父親409名、有効回収数280人、回収率は69%である。

結果：1) 父親の養育態度は、子どもを受容し、自分の思い通りにする方向にあるが、しつけには一貫性のある態度をとっている。2) こうした傾向は、父親の属性によって大きな違いは見られないが、核家族と一人っ子の父親は、より子どもを受け入れている。3) 父性性も、父親の属性であまり大きな違いは見られない。4) 養育態度と父性性の関係について、父性性の高い群は、子どもを受容し、統制的であるが、しつけには一貫性を持っている。5) 子どもとの心理的距離は、 $28.41 \pm 27.97\text{cm}$ である。6) 子どもが甘えわがまを表す時、心理的距離は、どちらかと言えば遠くなる傾向にある。